

2011.06.29 : 平成 23 年総務財政委員会

## 大河ドラマ清盛の PR 活動について

広報については、来年 1 月から清盛のテレビドラマが始まるわけですが、これに対して広報はどういうふうに取り組もうとしているのか。今現在取り組んでいる現状と将来どうするのか。来年に向かって全市民を巻き込んだ私は広報をしていくべきだと、こういうふう思っておりますので、このことについて、まずお伺いをしたいと思います。

### 答弁（大谷市民参画推進局長兼広報官）

来年の大河ドラマが清盛ということで決まりまして、ついせんだっても神戸で清盛推進協議会というのが立ち上がりまして、これからいよいよ本格的に神戸でその清盛というのを売り出していこうということで、これは全市挙げて、あるいは関係のいろんなマスコミさんとか団体さんも含めて総意で取り組んでいこうということでございまして。そういった流れの中で、具体的な事業といたしましては、例えばコアな事業として、ドラマ館とか歴史館とか、こういったものをハーバーランドなり、中央市場の西側の跡地で整備したりとかいうことをしながら、一方では、そういうことをしながら、清盛がこの時代になぜ注目を浴びるのかという——そういった意味では、私もつい最近までは知りませんでしたけれども、清盛というのは、初めてこういう政治をやる人の中で経済的な観念を持ち込んだという、そういうことでお聞きしております。そういった意味では、日宋貿易を盛んにするというようなことで、港——神戸の津を整備するに当たりまして、昔、山、海へ行くというような形で造成をして、海を埋め立ててというような形の港を整備いたしました。そういったことを経が島という、その時代でそういうような発想でお取り組みになられて、そういった意味では、その DNA が今日まで脈々と生き続けているのかなというようなことで、そういうおもしろい、非常に興味深い、そういったところがありますし、それと神戸というのはどちらかといえば、明治維新以降で比較的歴史が新しい都市やというようなイメージがあったんですけども、そういった意味では、本当にもっと古い古い歴史があるんだというようなことで、これは本当にいいチャンスだと思いますので、私ども広報を担当する局といたしましても、これからあらゆる手段を通じまして積極的な雰囲気盛り上げ、そういったことについて取り組んでまいりたいというふうに考えておりますので、またいろいろと何かお恵ございましたら、ぜひ言っていただきましたら、そういったことも参考にさせていただいて、いろいろ取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

### 清盛の足跡の整備について

「特に落ち込みが激しい長田区や兵庫区で、清盛の足跡の整備をはかり町の再生を図ってもらいたい。」

今おっしゃったような方向で取り組んでもらうことは非常に大事なことで、こう思っております。ただ、清盛の足跡と言ったらいいのかね、歩んだ道のりというものをずっと、本やとか、あるいは清盛に関する語り部、ようけおられますね、こういう人たちから話を聞いてくるんです。ただ 1 つだけね、我々が——我々がと言うよりも、私が常識的に思っておった一の谷の逆落としという場面、あれ須磨の一の谷やと私はついこの前まで思ってたんですが、実際は違いますよと、あれは須磨の一の谷ではあり得ませんということを、語り部の皆さんが口をそろえて言いますよ。どこですかと言うたら、長田の鶴だと、こう言っとるんです。そこまで言うので、確認の上で、ここが逆落としの現場でございますよということが確認できたら、そこにちゃんとした史跡の跡地をつけていって、歩いてしか行けない場所には、そういう清盛の足跡を散歩する会とか、そういうものをつくるべきだと思うし、市内だってね、整備しなきゃならない跡地がいっぱいあるんです。長田にあります腕塚というところね、塚は守りをしてきている人はたくさんおるんです——地域の人がしてくれてますけれども、その塚のそばへ行くのに通路がもう非常に狭いところ、2 人並んで歩いたらもう精いっぱいというようなところがあるんですね、ああいうところを今のうちに整備すべきだと、こういうふうに私は思っております。

神戸市内でいろんなまちを歩いていってもらうについても、あるいはまちの中を知ってもらうについても、神戸市民が一番に僕は知るべきだと、こう思っておるんでね。例えばシティループというバスがありますね。あれは一回清盛ルートというものを考えていただいて、市民がまず乗ることが大事だと思っておるんです。私、1番に乗せてもらいたいと思ってますんですね、そういうことについても考えていただけないでしょうか。あなたが今おっしゃった経が島というのは、大輪田の泊のことで、おっしゃるとおり私はポートアイランドの平家版だと、こういうふう思っております。

そういう意味から考えていったらね、清盛をいかに私たちが活用するかということによって、神戸の将来が決まるぐらいに思っています。特に、兵庫や長田やというようなところは、本当に今落ち込んでおりますから、清盛でもう1回生き返りたいと、こういう思いを持っておりますので、決意をひとつお聞かせください。

#### **答弁（大谷市民参画推進局長兼広報官）**

私どもの方も思いは先生と全く同一でございます、そういった意味では本当にここを1つの起爆剤といたしましてと言いますか、もう全力で——そういった意味ではいいチャンスでございますので、全国に——もちろん神戸市内というか、市民の皆さん方にそういうことで改めて知っていただくということも大事なんですけども、あわせまして全国にも発信して各地から神戸に足を運んでいただいてというような形で進めていければいいなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます

#### **要望**

本当に蛇足かも知れませんが、前回の龍馬のドラマのときに、ご存じのとおり長崎、高知、鹿児島というのが観光地として非常ににぎわったんですね。あの龍馬のドラマの中で、神戸が出てきているんですよ、約1カ月間ぐらいの間ね、神戸が出てきておるんです。だけど、その神戸の場面が出てきておるのに、神戸はそれには何の手助けもしてない、何の活用もしてないということは反省だと、こういうふうに私は思っておるんですが、その点は十分ご反省をいただいて、次のこの清盛については神戸市は余りにも力を入れ過ぎだと言われるぐらい、やっていただきたいということを要望して終わります。